

ネクストスター盛岡

2歳・ダート1400m M1
10月18日（日）盛岡競馬場

昨年の優勝馬・ラウダーティオ



未来優駿2026／JRA認定競走／日高軽種馬農業協同組合（株）優駿協賛

第4回 ネクストスター盛岡（M1） （ジオグラフィ賞）

盛岡競馬場／2歳・ダート1400m

10月18日（日）第12競走 18：15発走

『ネクストスター』競走は全日本的なダート競走の体系整備に際して2歳秋および3歳春に新設された高額賞金の重賞級認定競走で、2歳戦では『ネクストスター〇〇』として行われる競馬場の名称を入れた形になっています。岩手での『ネクストスター盛岡』は今年で4回目。第1回はフジユージーン、第2回はポマイカイが制して両馬ともその年度の岩手2歳最優秀馬に選出されたように、2歳世代の重賞戦線の中で重要な位置を占めるレースとなりました。

■タカマキナイン（牝2 水沢・佐藤祐司厩舎）



デビュー＆初勝利は5月17日盛岡ダート1000mの新馬戦。今季の岩手で4頭目の2歳新馬勝ち馬だった。メンバー中最多タイになる8戦のキャリアの中ではまだ2勝に止まっているが、それがデビュー勝ちと8月のIWATE LIMITEDでの勝利なのだから白星の質は高いと言える。ここまでの戦績を見る限り水沢よりは盛岡の方が、マイルよりはもっと短い距離の方がベターという印象があり、8月に勝ったのと同じ盛岡1400mで戦う今回は直近の着順をリセットして見る必要があるだろう。

うまく二つ勝てましたが馬体的にはもう少し成長がほしい気がしますね。ここからはどうしてもパワーがある馬が有利になってくるので、パワーが付いてほしいと思います。（佐藤祐司調教師）

■サンエイフローラ(牝2 水沢・畠山信一厩舎)



新馬戦快勝からスタートしてそこからの3戦を2勝2着1回とまとめている。その勢いを駆って挑んだビギナーズカップは勝ち馬からは離れた4着だったが3番手グループの中ではしっかり戦っていたし、前走は出遅れたところにスローの展開に遭ってしまってほとんど動けずに終わった8着。この着順の数字だけで評価を決めつけてしまうのは早いだろう。実際、序盤の3戦の中では今回のメンバーの多くと互角に戦っている。変身あって不思議なしだ。

前走は展開が向かずに力を出し切れなかった。距離も1400mの方が良いのでは。ちょっと気持ちが入りやすい点もだいぶ押さえて戦えるようになってきましたね。（畠山信一調教師）

■ニムロッド(牝2 水沢・佐藤祐司厩舎)



本馬は今季唯一の“芝1000mの新馬戦勝ち馬”。直線坂上できっちり差し切った末脚は、僅差といえどなかなかの素質を感じさせるものだった。その時点での馬体重が414kgだったこともあり新馬勝ち後は成長を促すために放牧を選択、9月に戦線復帰してからはまだ勝ち星がないが、そこは休み明けからの上昇途上ゆえの結果と判断しておきたい。父モズアスコットは芝ダを問わず活躍馬を送り出している種牡馬。本馬も芝が良い、ダートはもうひとつと評価してしまうのは時期尚早だろう。

調整過程の動きはすこぶる順調、休み明けだったここまでより良い状態で挑めそうです。芝だけの馬ではないと思うし左回りが良いかもとも思う。良い結果になってほしいね。（佐藤祐司調教師）

■ファイトレーヴ(牡2 盛岡・齋藤雄一厩舎)



デビューは門別。本来の5月の新馬戦は出走取消になってしまったものの仕切り直しの6月の新馬戦を快勝。その後の2戦で奮わず岩手に新天地を求めてきたが、例えば門別での最終戦はのちの重賞勝ち馬や上位クラスがゴロゴロといたハイレベル戦だったことは覚えておきたい部分だ。岩手での2戦は6着・4着と白星には届いていないがいずれも初コースでの戦いだった点は考慮できる。岩手の水に慣れてくればもっとやれていい馬だし、それがここであってもおかしくはない。

状態自体は大きく変わりませんが気持ちはかなり出てきていると思います。展開次第に流れに乗っていければ。（齋藤雄一調教師）

■セイテイサウザー(牡2 水沢・伊藤和忍厩舎)



デビューはタカマキナインと同じ5月17日でこちらが1R、あちらが2Rの勝ち馬。なので今季3頭目の2歳新馬勝ち馬だ。そのレースでは3角あたりでいったん最後方になる位置から直線猛然と追い上げて差し切って見せた。その時の上がり3ハロン35秒5は今季ここまでの盛岡ダート1000m・良馬場の2歳戦では断然の最速で、初戦から強力な武器を見せつけた結果でもあった。その武器は展開や馬場状態にも左右されやすい“諸刃の剣”でもあるのだが、ここまでも末脚は常に上位のものを繰り出している。ここでも展開ひとつだ。

近走は馬場とか展開が向いてくれないんですけども、終いの脚はしっかり使ってくれる馬ですからね。脚を溜めていける展開になれば良い競馬をしてくれると思っています。(伊藤和忍調教師)

■クリムゾンダリア(牡2 盛岡・橘友和厩舎)



ここまでの5戦は1勝3着4回という戦績。確かに白星先行ではないが、前走の若駒賞をはじめ今回戦うライバル達とは大きな差のない戦いを繰り広げてきたし、同じ3着ながらも勝ち馬とのタイム差は徐々に詰めていて走る度に力を付けている手応えもある。若駒賞にしてもスローの中で直線だけなら上位2頭にひけを取らない末脚を発揮。これならば、と重賞でも十分にやれるメドがついたはずだ。同厩の3歳馬ブライオンが先週のトパーズCを制して厩舎に久々のタイトルをもたらした。本馬もそれに続いてみせる。

実戦の間に育成に出して…の流れがうまくできつつある印象。力を付けてきていると思います。前がやりあってくれれば食い込むチャンスもあるんじゃないでしょうか。(橘友和調教師)

■リケアサンバ(セ2 水沢・菅原勲厩舎)



6月高知でのデビュー戦を2着に8馬身差を付ける圧勝で飾ると岩手に移籍、その初戦のビギナーズCでもデビュー戦を再現するかのような逃げ切りで重賞初制覇を果たした。その後は目標をここネクストスター盛岡に置いて、左回り経験を積むために若駒賞に出走、そこも逃げ切り勝ち。3戦無敗・重賞連勝というだけでなくしっかりステップを踏んだ臨戦過程にも隙がない。ここまでのレースぶりで分かる通り道中のスピードに加えて相手なりに流れを作れる安定感もある。ここでも最有力視されるのはごく自然と言える存在だ。

前走からの間隔が短いので調教はこれくらいで良いでしょう。前走で盛岡も対応できましたし、距離も1400mの方が戦いやすいと思うので特に不安はありません。(菅原勲調教師)

■タカマキイト(牡2 水沢・菅原右吉厩舎)



デビュー戦は1番人気に推されたもののサンエイフローラの2着。結果的に初勝利まで5戦を要してしまったが、その間も今回の主立ったライバルとは大きな差がなく上位を争ってきているし、芝のジュニアグランプリでは直線で勝ち負けを争う見せ場を作った4着なのだから地力は高いはずだ。近親には芝で好走している馬も目立つだけにもしかしたら芝の方がより良いタイプかもしれないがダートでもここまで堅実。力量の差、素質の差はひけを取っていないと判断しておきたい一頭。

状態的には変わりなく順調。周りに先行タイプが固まっているのでね。この馬にとっての良い位置を獲得するかどうかでしょう。(菅原右吉調教師)

■セイカールトン(牡2 水沢・板垣吉則厩舎)



5月のデビュー戦こそ2着に終わったが2戦目で初勝利、3戦目の若鮎賞で重賞制覇、4戦目のジュニアGPも勝利と着実に栄光の階段を上ってきた。とりわけ芝重賞での連勝は本馬の高い芝適性を感じさせるもので、岩手史上最高クラスの“芝馬”の登場すら期待したくなるものだった。その後のダート戦では2着に留まるが、ジュニアGPの際にも触れたようにデビュー前からレースセンスの高さを評価されていた馬、ダートでもその堅実さに変わりはない。転厩二戦目の今回は前走以上の結果を、雪辱を期待したいところだ。

前走から中一週なので速い時計は出していませんが状態は変わりないですね。現状ではやはり芝が良い感じですし、距離ももう少しあった方が戦いやすいのかも。(板垣吉則調教師)

■ゼノグレイス(牡2 水沢・佐々木由則厩舎)



ここまで3勝の実績は今回のメンバー中で最上位グループに入るもの。崩れたと言えるのは二走前の芝マイル戦だけで、力量もやはりメンバー中最上位レベルにあると見ていい。今回の課題を挙げるとすれば「実戦経験は十分にあるが重賞挑戦は初」という点。ここまでの2歳重賞でしのぎを削ってきた面々に対してはまだ力量のほどが定まっていないのは注意が必要だろう。しかしそれも見方を変えれば“未知の魅力”でもある。ここでどれだけ戦えるのか？を注目しておくべき存在なのは間違いない。

左回りの方が良い馬なので盛岡まで待機。少し間隔は空きましたが仕上がりとしては順調です。距離も前回勝っているので問題はないと思います。(佐々木由則調教師)

■マツリダゲンキマン(牡2 水沢・菅原勲厩舎)



5月4日の新馬戦を勝った本馬は今季の岩手での2番目の新馬勝ち馬。キャリア8戦で掲示板を外しておらず、というか3着を外したのは前走の若駒賞が初めて、それも4着だったというくらいに安定した戦いぶりを見せてきた。勝っても負けても僅差になりがち…というくらいはあるが、それにしても序盤に比べればずっと安定してきていることがタイム差からうかがえる。前走の結果は現時点で本馬が越えるべき壁の高さを示した形だが、実戦を経ながら経験値を積んできた本馬なら、その壁も乗り越えてしまうかもしれない。

前々走が強い競馬だったので期待した前走だったが思ったほどの結果ではなかった。もしかしたらマイルが少し長かったのかもしれませんがね。この距離ならどうでしょうか。（菅原勲調教師）

■ベラジオエヴァンス(牡2 盛岡・齋藤雄一厩舎)



全国で最も早く2歳戦がスタートする門別競馬では3月にはもうデビュー前の2歳馬の能力検査が本格化する。本馬も3月13日の能力検査に登場、のちに重賞を制するアンサーと差のない走りを見せていた。その後は成長を促すために間隔を空けて新馬デビューは7月29日、手堅い走りで見事新馬勝ちを果たしている。その時点でも448kgとまだ線の細さを感じさせていただけに前走時の471kgは好材料と見ていいはず。着順の数字は後退しているがまだまだこれからの馬と評価しておきたい。

前走時は+21kgでしたが乗り込みは十分積んでいたのでも体重はこれで良かったと思う。ただスピードタイプではない感じでね。大外枠からうまく流れに乗れるかどうかですね。（齋藤雄一調教師）